新富町のバランスシートを健康1人あたりにするとどうなる?

バランスシート

借

方

(固定資産や株、預金などの資産がどれだけあるか)

貸

万

(資産を手に入れるために払ったお金と借金)

土地や建物などの固定資産

平成21年度

1,610,000円

平成20年度

1,551,000円

借金



平成21年度

449,000円

平成20年度

427,000円

株などへの投資

CRC40 6 380 18H01 🗪 + 1,86%

SBF120 4315 18H01 → 1,699

平成21年度

92,000円

平成20年度

96,000円

すでに支払った額



平成21年度

891,000円

平成20年度

<u>877,000円</u>

現金・預金



平成21年度

73,000円

平成20年度

71,000円

支払った額のうち国庫・都道府県支出金で支払った額

平成21年度

435,000円

平成20年度

414,000円

新富町がこれまでに整備してきた道路や公共施設など の総額は、住民1人あたりで

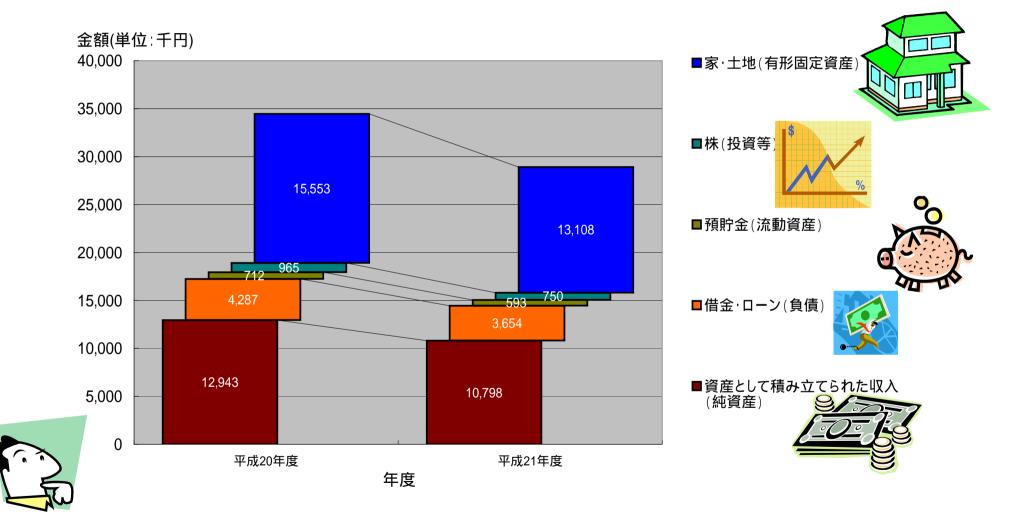
1,775,000円あります。次いで、すぐに現金化できる現金・預金といった資産が多くなっています。

また、資産を作るために使われたお金の中で最も大きいものは税金などのいわゆる自治体の収入ですが、 地方債などの借金も約34%を占めています。



年収360万円の家庭とした場合のバランスシート

注:ここでの収入は、歳入総額から地方債発行額を除いた額としております。



年収360万円の家庭とした場合の年間コスト

注:ここでの収入は、歳入総額から地方債発行額を除いた額としております。 金額(単位:千円) 3,600 ■食費(人件費) ■外食費(退職手当引当金繰入·賞与引当金繰入) 3,000 □水道光熱費·衣服費·旅費等(物件費) □家の修理費(維持補修費) 2,400 □減価償却費(減価償却費) ■医療費(社会保障給付) 1,800 □お祝い金・お見舞金等(補助金等) ■子供への仕送り(他会計等への支出額) 1,200 ■町内会費(他団体への公共資産整備補助金) □借金の金利(支払利息) 600 ■貸倒引当金繰入(回収不能見込計上額) ■雑費(その他行政コスト) 干尽 平成20年度 平成21年度

年収360万円の家庭とした場合の年間コスト分析

			構成比率	
	平成20年度	平成21年度	H20	H21
食費(人件費)	557千円	455千円	17.9%	15.7%
外食費(退職手当引当金繰入·賞与引当金繰入)	146千円	90千円	4.7%	3.1%
水道光熱費·衣服費·旅費等(物件費)	503千円	450千円	16.2%	15.5%
家の修理費(維持補修費)	1千円	1千円	0.0%	0.0%
減価償却費(減価償却費)	554千円	453千円	17.8%	15.6%
医療費(社会保障給付)	540千円	461千円	17.4%	15.9%
お祝い金・お見舞金等(補助金等)	410千円	487千円	13.2%	16.8%
子供への仕送り(他会計等への支出額)	309千円	241千円	9.9%	8.3%
町内会費(他団体への公共資産整備補助金)	32千円	58千円	1.0%	2.0%
借金の金利(支払利息)	64千円	48千円	2.1%	1.7%
貸倒引当金繰入(回収不能見込計上額)	7千円	10千円	0.2%	0.3%
雑費(その他行政コスト)	-140千円	1420千円	-0.5%	4.9%

人件費は、職員の給与ですので、行政サービスを提供する根本となる労働力に対するコストを表します。家計において根本といえる食費に置き換えられるでしょう。この割合が大きすぎると、その家計は食べるだけで精一杯であるといえます。

15.7%と昨年度より2.2%減少しています。

物件費は家計におけるさまざまな支出の項目が入っているため、水道光熱費・衣服費・旅費等としています。ここの割合が大きい団体は、小さい団体に比べて同じ額の支出をしていても比較的余裕があるといえるでしょう。15.5%と昨年より0.7%減少しています。

社会保障給付は、今後増大してくると思われる項目の1つですが、調子が悪くて薬を飲むように、住民が生活に支障をきたしている場合に補助を行うという性質のため、医療費としています。

昨年に比べると1.5%と微減しています。今後 どうなるのか注視する必要があります。

今後、動向を注目すべきなのは、これら人件費、物件費、社会保障給付の3点です。コストは低い方がよいと考えられますが、行政サービスを提供する限り必要な経費です。その中で、人件費はできるだけ小さい割合に抑えられるか、物件費、社会保障給付はどう変動していくか、これを毎年の財務諸表で比較していくと良いでしょう。

